

ホーバークラフト旅客ターミナルに関するワークショップにおける意見、要望等について

区分	意見、要望等	回答
ターミナル施設	西大分地区の新たなランドマークとなるターミナル施設の設計にあたり、見え方として特に意識したことは何か。また、大分らしさをどのように考えて設計したか。	長くのびていく道のような、エリア全体のデザインを先導し、港の未来を形作っていくターミナルのあり方が相応しいと考え、屋根を少しカーブさせて伸びやかに空に向かっていく感じを体感してもらったり、屋根の下では柱のかけで居心地のよさを感じてもらったりという作りをしています。大分らしさは人それぞれに感じ方がありますが、今回はホーバークラフトで宇宙港に直結するというアイデンティティを大切に、西大分の港の未来に対するポテンシャルに誠実に応えていきたいという思いで設計しました。また、大分の原風景である杉林のような、柱がたくさんありつつ開放感もある、大分らしいターミナルを意識しました。
	津波などの災害発生時に、目で見えてわかる方法で聴覚障がい者に配慮した避難情報等を提供してほしい。	旅客ターミナル施設には、フロア内どこからでも視認できる場所に、文字情報を配信できる大きなサイネージを設置する予定です。
	杉林を意識した柱が屋内にたくさん立てられるということだが、視覚障がい者に支障がないか心配している。乗降口に急いでいる人たちが柱の陰から急に飛び出すと接触事故のおそれがあるので、柱の間隔を十分にとるなど対策を工夫してほしい。	人の流れを考えながら柱の配置を検討しています。かけ込み乗船の方と視覚障がい者との接触事故のおそれも考慮しながら、動線計画をつくっていきます。
	曲面を多用した施設となっており、建物の内側と外側とでアナウンスなど音の伝わり方が異なると思うが、何か配慮していることはあるか。	アナウンスを伝えるスピーカーは、屋内だけでなく屋外の軒下や屋上にも配備する予定です。ターミナルのどこにいても搭乗案内や遅延などの情報が届けられるよう、曲面による音響への影響も考えながら設計を進めています。
	県外の観光客を迎え入れるターミナルとして、ネイチャーとカルチャーが融合した、大分らしさを感じられる施設としてほしい。	今後様々なアイデアを取り入れて多様で豊かな施設になるように、現時点ではあえて細部まで決めてしまわないようにしています。今回のようなワークショップを何度か開催しながら、皆さんの知恵を結集させて、エリア全体を盛り上げていける施設をつくりあげていきたいと考えています。
	大分市西大分地区に新たに発着地を整備することになったが、ターミナル施設の設計にあたり、西新地にあった以前のターミナル施設から意識的に変更したことはあるか。	今回は港と一体となった場所に発着地を整備するため、以前の大分川河口とはロケーションが大きく変わりました。そのため、西大分の新しい場所と調和し、未来へのビジョンを指し示すターミナル施設になることを意識して設計しています。

ホーバークラフト旅客ターミナルに関するワークショップにおける意見、要望等について

区分	意見、要望等	回答
船舶	<p>現在は車椅子利用者が大分空港にアクセスする手段がほとんどない。空港バスは車椅子のまま乗ることができず、タクシーを使うと片道2万円近くかかっているため、ホーバークラフトの導入に期待している。ユニバーサルツーリズムの推進や、今後の超高齢化社会の到来を考えると、複数の車椅子利用者が同時にホーバークラフトに乗船できる工夫や配慮をしてもらいたい。</p>	<p>新たに導入するホーバークラフトはスロープを備えるなど、車椅子利用者の乗降に配慮した仕様となっています。加えて、車椅子に乗ったままの状態に乗船可能な車椅子スペースを乗降口の近くに設ける予定にしていますが、例えばシート部分を収納できる座席を最前列に設けるなど、なるべく多くの車椅子スペースを確保できる方法を、造船事業者とも相談しながら検討を進めます。</p>
	<p>船内に設置する予定のタブレット端末では、聴覚障がい者に配慮した使用方法を何か想定しているのか。</p>	<p>船内の全座席にタブレット端末を設置するか、前方に大きなモニターを設置するかは検討中ですが、いずれにしても文字情報を配信する予定です。例えば、字幕付きの観光案内情報の配信などを計画しています。</p>
	<p>JR九州のデザイン&ストーリー列車にも負けないような、魅力的なデザインのホーバークラフトを導入してもらいたい。</p>	<p>—</p>
	<p>ホーバークラフトのデザインは大事だと思う。若い人たちが楽しめる可愛い見た目にするなど工夫してほしい。</p>	<p>—</p>
航路	<p>大分県観光の中心である別府市を発着地とする大分空港海上アクセス航路の予定はないか。</p>	<p>大分空港－別府市間の航路については、陸路との比較で時間短縮効果があまり大きくなく、利用需要の確保に課題がありますので、現時点では常時運航の計画はありません。しかしながら、観光客向けのチャーター便など予備船を活用した臨時航行について、別府市以外の航路も含めて今後その可能性を検討します。</p>
アクセス道路	<p>県道大在大分港線は朝晩を中心に渋滞することが多いが、周辺道路の整備をどのように考えているか。</p>	<p>主要幹線道路としての県道大在大分港線とホーバークラフト発着地をいかに円滑に結ぶかということが大事であり、浜町北交差点から進入する道路(テレビ大分横)を主要アクセス道路とすることを想定しています。大分市が管理する道路になりますので、右折レーンの新設など、大分市と協議のうえ渋滞に配慮した整備を検討していきます。</p>
	<p>かんたん港園から旅客ターミナルまで歩いて行ける動線ができなければエリアとしての楽しみが創出されないように思う。ホーバークラフトの運航開始までにエリア開発をお願いしたい。</p>	<p>—</p>
	<p>ホーバークラフトを県全体の観光浮揚につなげてほしいと思っている。豊肥地域は熊本空港の利用者が多いが、中九州横断道路を東九州自動車道に接続させることで、大分空港への利用転換が図られ、ホーバークラフトの旅客ターミナルが活性化するのはないか。</p>	<p>—</p>

ホーバークラフト旅客ターミナルに関するワークショップにおける意見、要望等について

区 分	意見、要望等	回 答
MaaS	ホーバークラフトを中心としたMaaSシステムの導入について、現時点での構想を教えてください。	行政、交通事業者その他関係団体等で構成される大分空港利用促進期成会において、大分空港を起点としたMaaSの検討を開始する予定です。今後、ホーバークラフトの導入により、大分空港から陸路と海路の複数ルートが確保されるとともに、大阪・関西万博の開催などにより、インバウンドの拡大も予想されますので、多様化する来県者が利用しやすい公共交通の環境整備を、新たなMaaSシステムの導入によって実現したいと考えています。
	訪日外国人が交通手段を問わずに使える周遊券などを検討してほしい。	MaaSの導入にあたっては、国内の観光客だけでなく訪日外国人にとっても利用しやすい、交通と観光をセットにしたシステムの検討を進めます。
賑わい創出	西大分地区の賑わいづくりに貢献するホーバークラフトの就航に大変期待している。大分市が田ノ浦地区に整備を予定している道の駅と面的な繋がりができるよう連携を図ってほしい。	西大分から西部海岸地区にかけての賑わい創出に関しては、県と市で連携して回遊性を高める取組を実施していくことを確認しています。今後、周辺地区全体の賑わいづくりに向けた具体的な取組の検討を進めます。
	大分市次世代モビリティ研究会が令和5年度ごろに実証実験を計画している次世代モビリティを、西大分地区で運行できるよう大分市との連携を図ってほしい。	—
	見学にきた子どもたちが喜ぶような、国内唯一となるホーバークラフトの魅力をいかした取組ができるとういのではないかと。	ホーバークラフトからのリアルな映像や情報を集めたコントロールセンターを社会見学で開放するなどして、ホーバークラフトの走りを体感できるような取組を考えていきます。
	ホーバークラフトのターミナルが整備されれば、西大分地区の賑わいや新たな雇用の創出なども期待される。建物や船舶へのネーミングライツの導入、あるいは県民から船舶の愛称募集を検討してはどうか。	県民の皆さんと一緒にホーバークラフト導入の取組を進めていきたいと考えています。船舶のデザインや愛称の募集など、県民の皆様が関わりを持てる仕組みを検討します。
	旅客ターミナルの周辺に大型商業施設など若い人が集まる施設があれば、ホーバークラフトへの関心がさらに高まるのではないかと。	—